

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570300602		
法人名	社会福祉法人 祐寿会		
事業所名	グループホームよしき		
所在地	山口県山口市吉敷佐畑4丁目5番24号		
自己評価作成日	平成27年1月2日	評価結果市町受理日	平成27年6月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成27年1月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

三食とも野菜をふんだんに取り入れた献立でホーム内で調理しております。月に8回はお楽しみ食として季節料理や誕生会で、入居の方の希望を取り入れた献立を立てています。日常でも出来る方とは一緒に調理をしたりクッキングの日を設けて各自で思い思いに盛りつけをして頂き食への興味を持って頂くと同時に出来ることの継続の支援をしています。また、園芸や畑作りにも参加され、収穫した野菜と一緒に調理しています。お楽しみ食は系列施設の栄養士に確認して頂き評価を得ています。3月～10月まで毎月お茶会をする他、花見や紅葉狩り、ボランティアの方々によるオカリナ演奏や大正琴、歌体操、手芸にも来て頂き地域やご家族との交流を深めています。行事の際、写真やビデオに撮り、掲示や視聴することで会話をし認知症のケアに役立てています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は自己評価をすることで自身のケアを振り返る機会と捉えておられます。外部評価結果を運営推進会議で報告され、会議で話し合われて目標達成計画を立てられ、運営推進会議のメンバーに新たに自治会長や民生委員等のメンバーを加えられ、防災訓練への参加を得て地域との連携構築のステップとされたり、地域の人と一緒に法人の農園での畑づくりを楽しむ取り組みにつなげるなど、具体的な改善に取り組んでおられます。月1回開催される法人研修には、その日の夜勤以外の全職員が参加しておられる他、月1回実施される勉強会で外部研修を受講した職員が発表して知識の共有を図られたり、職員の希望を参考に立てた計画をもとに、職員が交代で講師を務めて学びあわれるなど、職員の資質の向上に取り組んでおられます。三食とも事業所で調理をしておられ、月8回のお楽しみ食の日や月1回のクッキングの日を設けておられる他、手づくり弁当を持参しての花見や紅葉狩りに出かけられたり、年2回の外出など、利用者が食事を楽しむことができるよう工夫して支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	作成した基本理念を常に意識して業務に取り組むようホールに大きく掲示して共有しながらチームケアとして実践につなげている。	地域密着型サービスの意義をふまえた独自の理念をつくり、事業所内に掲示して職員が共有している。理念に沿った介護計画を作成し、日々のケアの中で実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の福祉委員、民生委員さんが定期的に来苑され、お茶会や季節の行事に参加されたり、一緒に作品作りをして交流を深めている。また、近くの小学生や地域のボランティアさんにも来て頂き交流している。	事業所のお茶会(3月から10月まで各月1回)や季節の行事(花見、紅葉狩り)に、地区の福祉員や民生委員の参加を得ている。歌体操、オカリナ、大正琴、手芸等のボランティアの来訪がある他、小学4年生の体験学習を受け入れ、踊りや歌、ゲーム、本読みなどで利用者と交流している。保育園児や小学生が庭に遊びにきたり、法人デイサービスの利用者が来訪するなど、日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議などで地域貢献にむけた話し合いを行う様にしている。また、認知症についても理解して頂ける様に話をしている。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	毎年、各自で自己評価し、理解し意識統一するように取り組んでいる。また外部評価で指摘された項目に対し皆で話し合い改善に取り組んでいる。	管理者が、評価の意義を説明し、職員が自己評価をするための書類に記入したものを勉強会で話し合い、意見を参考に管理者がまとめている。職員は評価を自分のケアを振り返る機会と捉えている。外部評価結果は運営推進会議で報告し、グループホーム会議で話し合って目標達成計画を立て、運営推進会議のメンバーに新たに自治会長や民生委員の参加を得るなど、具体的な改善に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組み内容や現状を報告し情報、意見交換をし問題点などを話し合いサービスの向上に活かしている。	新たに自治会長や民生委員の参加を得て、年6回開催している。行事予定や外部評価結果などを報告し、地域との交流や防災訓練などについて情報交換や意見交換をしている。防災訓練にメンバーが参加し、地域でできることや役割についての意見交換をしたり、法人の農園で地域の人と一緒に収穫を楽しむ取り組みにつなげるなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き事業所の現状や直面している課題の解決に向けて相談したり助言を頂いているが日頃から密に連絡は取り合っていない。	市の担当課とは、法人を通して連携をとり協力関係を築いている。地域包括支援センターとは運営推進会議時にアドバイスや助言を受けているなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内外の研修に参加し、身体拘束しないケアを勉強している。また、スピーチロックにも気を付けながら抑圧感のない暮らしの支援ができるよう環境に配慮したり、声掛けに気を付けてケアにあたっている。	法人の身体拘束委員会(2ヶ月に1回開催)に職員が出席し、その結果をグループホーム会議で話合っ、職員は身体拘束をしないケアについて理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについて気になるところは、職員同士で注意しあっている。玄関の施錠はせず、外に出たい利用者には職員と一緒に外へ出て支援している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内や外部研修に参加して虐待防止の理解を図り、周知して虐待のないケアに取り組んでいる。平成27年3月中によしき悠々苑の虐待防止委員会にむけて準備している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修、居宅のケアマネや地域包括支援センターのケアマネなどを通して情報交換し、もっと制度について学ぶ必要があり必要に応じては家族に周知を図っていく事が望まれる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時は利用者やご家族の不安や疑問を十分表せるような働きかけと説明を行い納得を得たうえで手続きを進めている。また、料金改定など契約内容の変更時は書面や話をさせていただき理解、承諾を得ている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは日常生活の中で自然と思いや意見を聞き出せるような雰囲気づくりに努め、家族からも来苑時やモニタリング時、敬老会の後の座談会にて意見を出してもらいサービスやケアの向上につなげられるよう努めている。また、玄関にご意見箱をもうけ自由に記入して頂けるようにしている。	苦情や相談の受付体制や処理手続き、第三者委員を定め、契約時に家族に説明している。運営推進会議や敬老会後の懇談会、モニタリング時、行事参加時等で家族から意見や要望を聞いている。利用者の要望によりカーテンを新たに付けたり、家族の意見により、薬の保管状況について確認するシステムを取り決めるなど、出た意見を運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	G・H会議や職員からの要請がある時は意見や提案を聞く機会を設けている。	月1回のグループホーム会議では会議の前に職員が希望する議題をノートに記入しておくなど、意見を出しやすいように工夫して、意見や提案を聞いている他、日々の業務の中で、その日のリーダーが聞いた意見を管理者や運営者に伝えている。職員の意見から、利用者の状況に合わせた勤務体制に変更するなど、意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	よしき悠々苑内外の研修へ積極的に参加してもらい、職員のやりがい向上が持てる様にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内外への積極的な研修の参加とG・H勉強会での復命、職員の目標設定等で職員の平準化とレベルアップを行っている。	外部研修は、職員の段階に応じて年10回参加の機会を提供している。受講後は復命書を回覧するとともにグループホーム勉強会で発表して全職員の知識の共有を図っている。法人研修は褥瘡、認知症、食中毒、事故予防、感染症対策、接遇、虐待、生活支援技術などのテーマで月1回開催し、その日の夜勤以外の全職員が参加している。内部研修は、月1回、職員の希望を参考に管理者が計画を立て、連絡網の確認、災害訓練、認知症、食中毒、吐物処理、手洗いの実践、アセスメント、転倒、発熱、リスクマネジメントなどのテーマで、職員が交代で講師を務め実施している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修はG・H協会等に参加し交流できる機会を設け情報交換で職員のレベルアップや悩みの解決としている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴やご本人から話を聞きながら共通の話題を見つけ会話をし安心されるような関係を築くように努力している。また、本人の希望や困っている事、不安なことなどご本人の思いを受け止めながら信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困っている事、不安な事、要望等を聞いたり情報交換をしながら関係作りに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入の段階でご家族と話し合い、その情報、要望をもとにご本人が安心、納得して頂ける様なケアプランをたてている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることはなるべくご自分でして頂き出来ない所を支援することにより暮らしを共にするもの同士の関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や受診、散髪等できるだけご家族にお願いし本人を共に支えている。また、定期的な面会やお盆やお正月の外泊や面会で本人と家族のふれあいや関係性を築いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームに友人や知人、家族、兄弟等馴染みの人が気軽に訪ねてきている。行きつけの美容院やお寺、お墓参り等ご家族にもお願いしている。	家族や親せきの人、友人、知人の来訪がある他、手紙、年賀状、電話での交流の支援をしている。ドライブ時に自宅の周辺や馴染みの店の前を通るコースを選んだり、家族の協力を得ての墓参りや行きつけの美容院の利用を支援するなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い者同士同じテーブルにするなど、安心して生活できるように支援している。また、利用者同士でトランプや会話を楽しませている。仲の良い方の居室を訪問される方もいる。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があればいつでも対応しているし、出来る範囲で面会に行ったりしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望は、ケアプラン更新時と3ヶ月評価のモニタリング時に本人にお聞きし反映している。また、困難な場合は日常生活の様子や会話等から、また過去の生活歴やご家族からの情報を参考にし職員間で話し合っている。	日々の生活の中の利用者の言葉や行動を24時間シートに記録している他、3ヶ月毎に行うカンファレンスの前に利用者を担当する職員が中心となって利用者に話を聞き、職員が話し合っ、思いや意向の把握に努めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族にわかる範囲で、センター方式の暮らしの情報シートに記入してもらっている。また、日常会話の中で直接聞いた事を記録し、職員で共有しサービスに組み込んでいる。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの24時間シートで1日の過ごし方、心身状態を把握している。また、有する力では無理強いすることなくその方のペースで声掛けしながら得意な事や出来ることをしていただいている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを3ヶ月に1度見直しモニタリングを行い、ご本人の意向や状態を把握しながら家族からの要望も伺い職員間でカンファレンスをし意見交換やプランの見直しをし前向きなプランになるように話合っている。	主治医の意見や本人の意向や家族の要望を参考にして、全職員で話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎のカンファレンスでモニタリングを行い、見直しをしている。利用者の状況の変化に応じて見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の24時間シートを記録し会話して気付いたことや特別な言動などを記入した時はマーカーで囲み職員間で把握しやすい様に工夫している。また、ケアプランに作成した内容やケア項目はシートに組み込みチェック方式で実践しているか確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多忙なご家族や遠方のご家族の希望を取り入れ散髪や受診の支援や介護用品の購入の支援など柔軟な支援や多機能化に取り組んでいる。また、3か月毎に評価、モニタリングをし、問題あれば職員間で話し合い柔軟な支援をしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学生との交流やお茶会で地域の福祉委員さんにお茶会の接待をしたり、一緒にお花見や紅葉狩り等出かけたり余暇を利用して塗った雑巾を交流センターに届けたりと持てる力を発揮して頂きながら日々の暮らしを楽しんで頂けるように支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人及びご家族の希望のところになるべくご家族に対応していただいている。無理な場合は職員が対応したり有料ヘルパー間の受け渡しの支援をしている。受診の際は日常のバイタルチェック表や特別の場合は様子を書いた物を渡し適切な医療が受けられるように支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を、血圧体温チェック表や日頃の状況を記録したものを家族に提供して、家族の協力を得て支援をしている。受診結果は24時間シートや連絡帳に記録し、全職員で共有している。緊急時には協力医療機関と連携し、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	G・H内の看護師に気になる症状や気付きがある時はその都度報告し適切な指示、助言仰ぎ対応している。G・H内の看護師不在時は系列施設の看護師に相談したり応援を求めている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供書を作成し家族の了解の元開示している。また、退院時は医療関係者とカンファレンスを行い今後の対応について情報交換、相談をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合どこまで支援できるか説明している。日常の様子を常、日頃からご家族に伝え重度化した時にどうするか話し合い不安のないように取り組んでいる。また、敬老会や茶話会でも話し合い、意見交換をして方針を共有している。	契約時に、重症化した場合に事業所のできる対応について家族に説明している。実際に重症化した場合は、事業所が家族に情報を提供し、家族がかかりつけ医と相談して、他施設への移設も含めて方針を共有して、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	日常でヒヤリとしたことをノートに記録し後日職員間で予防策や改善策を話し合い事故防止に取り組んでいる。また、G・H内での勉強会や苑内外の研修でも応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。マニュアルも作成している。	事例が生じた場合は、その日の職員が段階に応じて、ヒヤリハット記録、ヒヤリハット報告書、事故報告書を作成し、全職員に回覧し、再発防止のために話し合っている。事故報告は、年4回開催する法人の事故対策委員会で検討し、研修会で発表して事故防止に取り組んでいる。内部研修で転倒、発熱について、法人研修で事故予防について学んでいるが、全職員が実践力を身につけているとは言えない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内で年2回マニュアルを作成し連携を取りながら避難訓練を行っている。事業所内でも勉強会などで取り入れ全職員が一人ずつ実践し身につける様努めている。また、地域との協力体制も図れるように推進会議等で呼びかけ訓練に参加して頂いている。	年2回消防署の協力を得て、法人施設合同で昼夜間を想定した消火、通報、避難訓練を行い、内1回は火災訓練に合わせて土砂災害訓練を行っている。法人の訓練の前に事業所独自で利用者也参加して避難訓練を行い(年2回)、今年から自治会長、民生委員、福祉員など、地域の人4人の参加が得ているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない様な声掛けや対応をしている。また、苑内外の研修に参加し勉強している。	法人研修で接遇について学び、職員の発案による「接遇目標5項目」を掲げて毎日朝礼で全員で唱和している。職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中でご本人の思いや希望を引き出したり、表情や言動にも注意し思いをくみとるようにしている。また、自己決定できる状況を作るように努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが、一人ひとりのペースを大切にして体調なども考慮しながら本人の希望を聞いたり、いくつか選択出来る物を準備し出来る範囲で参加して頂くことで1日が充実したものになるように支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事や外出時にはお化粧をしておしゃれな洋服を着て頂くなど支援している。身だしなみの不十分な方にはその都度整えている。また、定期的に馴染みの美容院に家族と行かれる方もおられる。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	G・H内で食事を作ることで調理の音やおいで食事が楽しみなものになっている。盛り付けや色合いなどにも気を遣いおいしそうに思ってもらえる様に努力している。月8回のお楽しみ食には入居者の好みを聞いて献立を立てたりホーム内で野菜と一緒に収穫しそれを利用することで食への関心を持って頂く様に支援している。クッキングの日には調理に参加して力を発揮して頂いている。	三食とも事業所で食事づくりをしている。事業所の畑でできた旬の野菜(かぼちゃ、ピーマン、ナス、きゅうり、トマト、玉ねぎ、レタス、里芋など)を使ったり、近所からの差し入れを使って、利用者は職員と一緒に洗米、野菜の皮むき、キャベツの千切り、配膳、お茶配り、テーブル拭き、下膳、食器洗いなどできることをして、職員と同じ食卓で会話をしながら食事を楽しんでいる。月8回お楽しみ食の日として利用者の好みを聞いて献立作成をしている。月1回のクッキングの日には、利用者はちんすくみのトッピングなどの調理やおやつづくり(おはぎ、ホットケーキ、牛乳寒天など)を楽しんでいる。手づくり弁当を持参して花見や紅葉狩りに出かけたり、年2回の外食など、食事を楽しむことができるよう工夫して支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が立てた献立により栄養バランスのとれた料理をお出ししている。食事形態も一人ひとりの状態や習慣に応じて変えて食べやすいものになっている。食事量や水分量が不十分な方には適切な声掛けをしている。気候にあわせ脱水にならないようにしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、毎食後には緑茶にて義歯をはずして口濯ぎをして頂いている。また、義歯もしっかり洗浄して頂いている。必要に応じて出来ない所を援助している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	24時間の行動記録を活用し一人ひとりの排泄パターンを把握しながらトイレ誘導を行い排泄の失敗を減らしている。また、食事前後や外出の前後にはトイレの声かけ誘導をしている。	24時間シートの記録を活用して排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた声かけや誘導で、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には野菜や食物繊維の多い食材、雑穀米、乳製品を取り入れ便秘の予防に努めている。また、水分補給の時間を設けたり体操や散歩等で体を動かす機会を増やしている。排便チェックリストを作り排便状況を把握し便秘薬等で調整している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者が高齢である為体力的な事を考慮し時間帯や曜日は決めているが入浴の時間が楽しい物になるように会話を工夫したり入浴剤を入れリラックスして頂ける様に工夫している。	入浴は毎日、13時から15時までの間可能で、2日に1回入浴できるよう支援している。利用者の体調に合わせて足浴やシャワー浴の支援をしている。入浴剤を入れたりゆず湯にしたり、職員と1対1で会話をしたりして入浴を楽しめるよう支援している。入浴したくない人には「着替えてきませんか」など、さりげない言葉かけを工夫して支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は一人ひとりの体力に合わせ自由に居室に戻って休息していただいている。なるべく日中の活動量を増やし夜の安眠に繋げている。夜間は不安など訴えがあれば安心して頂けるような声掛けをしたりエアコンで温度調節している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を作成し一人ひとりの服薬状況が分かるようにしている。薬の変更や症状に変化が見られた時は看護師に相談し家族や主治医に伝えている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干しや洗濯たたみモップがけ等体力に合わせた役割をして頂いている。また、トランプや裁縫、畑など好きな事出来ることを選択して頂いたり天気の良い日は散歩や日光浴、また、ドライブや外食に行ったり、地域の方やボランティアとの交流を通して持てる力を発揮して頂き活躍できる場を作っている。	畑の水やりや収穫、トランプ、習字、歌体操、口腔体操、テレビ体操、リハビリ体操、踊り、テレビ視聴、クイズ、新聞や週刊誌をよむ、絵本を読む、大正琴の演奏、雑巾縫い、編み物、洗濯物干し、洗濯物たたみ、調理の下ごしらえ、お茶入れ、節句の柏餅づくり、しそジュースづくり、書初め、ミニ運動会、ソーメン流し、敬老会、お月見の盆踊り、クリスマス会、門松づくり、餅つき、お笑い講、しめ縄づくり、どんと焼きなど、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気候の良い時期は日光浴や散歩を取り入れ戸外に出られる様に支援している。また、ドライブや外食、季節に応じての花見や紅葉見学は地域の方や家族にも参加して頂き一緒にバスで出かけている。ご家族にも協力して頂きご本人が希望される美容院や墓参りなどにも出かけられている。	家族や地域の人と一緒に花見(桜)や紅葉狩りにバスで出かけたり、ドライブで季節の花見(梅、アジサイ、つつじ)に行っている。法人他施設の夏祭りへの参加や外食の支援をしている。家族の協力を得て外食や買い物、寺参り、美容院の利用などの支援を行っている。散歩や日向ぼっこなど外に出られるよう支援しているが、気軽に利用者が外出できる機会が少なくなっている。	・日常的な外出支援の工夫

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実際にお金を使われる事はないが、手元にお金がないと不安になられる方は、ご家族の了解の元少額のお金を所持している方がおられる。また、ご家族と外出された折りにお金を持って買い物をする方もいる。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方がおられる時は職員が取り継ぎ話ができるように支援している。手紙を書かれる方は職員がポストに投函したり、一緒に投函しに行ったりとやりとりができるように支援している。年賀状を書かれる方もいる。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホール、廊下には季節感のある掲示物や作品を飾ったり花を活けたりしている。また、行事の写真やボランティアさん手作りの手芸品なども飾って楽しんで頂ける空間を提供している。温度も暑過ぎたり寒すぎないように気を付けながら調整している。	玄関や居間に季節の花を活け、壁には利用者と職員が一緒につくった季節の作品が飾ってある。リビングと隣接した台所から、調理の音やにおいがして生活感を感じることができる。廊下に行事の様子や利用者の写真を貼り、行事を振り返って楽しい気分になるよう工夫している。温度、湿度、換気に気をつけ、清潔に保たれており、居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った者同士の席を設け会話しやすい様に工夫している。また、一人でも新聞や雑誌を読まれたりしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具や仏壇、写真などご自分の使い慣れた物や大切にしている物を持って来て安心して過ごして頂いている。また、TVを持って来て観ている方や大正琴を持って来て練習している方もおられる。	ダンス、ハンガー、机、椅子、鏡台、テレビ、大正琴、位牌、時計などを使い慣れたものを持ち込み、家族写真や若い時の写真などを飾って、温度や湿度を職員が調整しながら、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室など手すりを設置して安全な環境作りをしている。トイレがわからない方には手すりに矢印をつけ、一人で行けるような工夫をしている。居室の空間があり過ぎて転倒の危険がある場合は手摺替わりになるような家具の配置も工夫している。ベッドから転落の危険がある方はベッド柵をつけていただいている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームよしき

作成日：平成 27 年 6 月 24日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	事故防止の取り組みや事故発生時の応急手当の方法を全職員が実践力を身に付けるとはいえない。	全職員が応急手当や初期対応の定期的な定期的訓練をして実践力を身に付ける。	・勉強したい応急手当の仕方や初期対応の仕方を勉強会のノートにあげ、毎月の勉強会で看護師の協力も得ながら一つずつ実践していく。	7月～12月
2	36	災害や地震、水害との災害等の災害時の訓練に地域の方の参加は得られているが地域との協力体制を築くまでには至っていない。	地域との協力体制の構築がさらに図れるようにしていく。	・地域推進会議で協力体制の相談をし実践していく。 ・悠々カフェテラスを通して話しやすい場を作り協力体制の構築を図る。	7月～12月
3	50	入居者が気軽に外出できる機会が少なくなっている。	日常的な外出支援の工夫をする。	・お天気の良い日は法人内のレインボー広場まで散歩に行く機会をつくる ・買い物に行く機会を設け、行ける入居者様と一緒にいく。	7月～12月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。